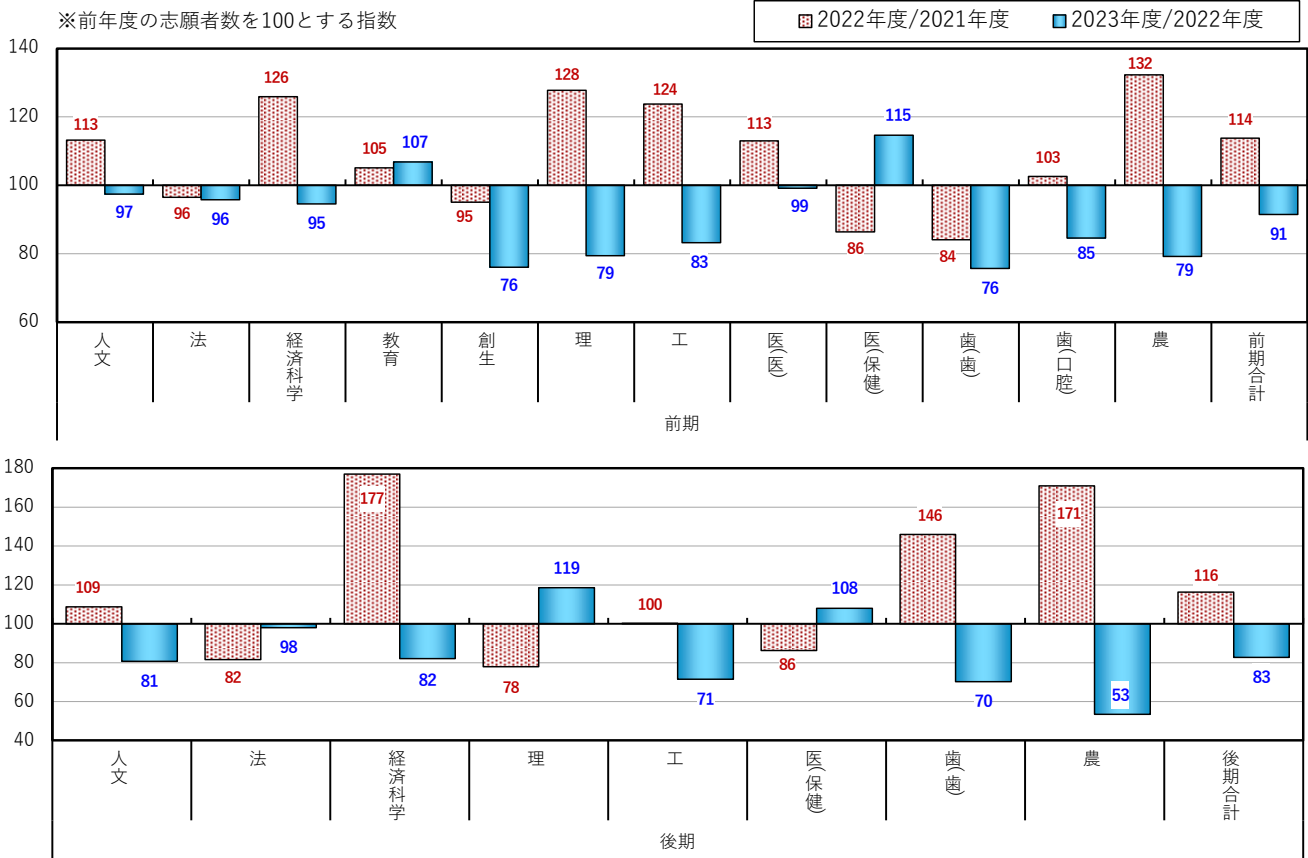


新潟大：前後期共に反動で減少、学部・学科単位でも多くは反動による増減 前期：-304人 後期：-411人



COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、コロナ禍による移動回避に伴う地元志向が緩和され減少。前期は前年度増加の反動もあって、304人(91)の減少。学部別(医、歯は学科別、以下学部・学科別)では、増加は医(保健)(115)の大幅増加、(教育)(107)のやや増加のみで、他の学部・学科はいずれも減少。特に歯(歯)(76)、創生(76)、農(79)、理(79)、工(83)、歯(口腔生命福祉)(85)は大幅減少で、理系の減少が顕著。連続増加は教育、連続減少は法、創生、歯(歯)のみで、前年度と逆の増減が目立った。後期も前年度幅大幅増加の反動から、411人(83)の大幅減少で、前年度の反動による増減が継続。学部・学科別では、理(119)の大幅増加と、農(53)、歯(歯)(70)、工(71)、人文(81)、経済科学(82)の大幅減少が目立った。また、連続減少は法のみで、他の学部・学科はすべて前年度の逆の増減。

<前期日程>

- 人文(97)は、前年度増加の反動は小さくやや減少。
- 法(96)は、やや減少で3年連続減少。
- 経済科学(95)は、2年連続増加の反動は小さくやや減少だが、志願者数は500人台を維持。
- 教育(107)は、2年連続やや増加。課程・コース・専修別では、13募集単位中で増加は9募集単位、減少は4募集単位。(学校教員/教科教育-保健体育)(108)、(学校教育/学校教育-学校教育学)(87)の2募集単位を除くと、いずれも大幅な増減。
- 創生(76)は、2年ぶりの大幅減少で3年連続減少。志願倍率は2.1倍→1.6倍にダウン、2017年度の新設以降、初めて志願倍率が2倍を下回った。
- 理(79)は、2年連続増加の反動で大幅減少。選抜方法別では、<野外科学志向選抜>(62)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、志願倍率は1.5倍→0.9倍にダウン、2年ぶりに1倍を下回った。<理数重点選抜>(74)は3年連続増加の反動で大幅減少。一方で、<理科重点選抜>(123)は2017年度の選抜方法変更後減少が継続した反動で大幅増加。
- 工(83)は、2021年度に改組したが、前年度の大幅増加の反動で大幅減少。選抜方法別では、<共通テスト重視型>(47)は前年度共通テストで大幅難化した数学の配点比率が全体の25%と小さいことで狙われて大幅増加した反動で半減以下、一方で、<個別学力検査重視型>(211)は前年度共通テストで大幅難化した数学の配点比率が全体の33%と大きいことで敬遠されて大幅減少した反動で倍以上。選抜方法の名称と共通テストの平均点の変化との相関が逆に感じられる増減となったが、教科ごとの配点の違いが志願動向に大きく影響した。
- 医(医)(99)は、系統への高い人気から、前年度増加の反動は小さく、前年度並。
- 医(保健)(115)は、2年連続減少の反動で大幅増加。専攻別では、(保健/検査技術科学)(270)は2年連続半減近かった反動で激増。一方で、(保健/放射線技術科学)(59)は大幅減少で3年連続減少、(保健/看護学)(86)は減少。
- 歯(歯)(76)は、3年連続大幅減少。志願倍率は4.6倍→3.5倍にダウン、志願倍率は2010年度以来の4倍を下回った。
- 歯(口腔生命福祉)(85)は、大幅減少で、3年ぶりの減少。志願倍率は2.6倍→2.2倍にダウン。
- 農(79)は、前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率は2.3倍→1.8倍にダウン、2年ぶりに2倍を下回った。

<後期日程>

- 人文(81)は、3年連続増加の反動で大幅減少。志願倍率は10.0倍→8.0倍にダウン。

- 法(98)は、前年度の大幅減少に引き続き微減。
- 経済科学(82)は、前年度激増の反動で大幅減少。
- 理(119)は、2年連続大幅減少の反動で大幅増加。
- 工(71)は、大幅減少。募集人員が50人となった2021年度以降は志願倍率6.4倍が連続したが、4.6倍にダウン。
- 医(保健)(108)は、前年度減少の反動で増加。専攻別では、(保健/検査技術科学)(236)は前年度半減以下の反動で倍増以上。志願倍率は8.3倍→19.6倍に大幅アップ。一方で、(保健/放射線技術科学)(52)は前年度激増の反動でほぼ半減。志願倍率は21.8倍→11.4倍に大幅ダウン。(保健/看護学)(89)は2年連続減少。
- 歯(歯)(70)は、2年連続大幅増加の反動で大幅減少。
- 農(53)は、前年度激増の反動でほぼ半減。2020年度以降前年度の反動による大幅な増減が継続。